

2023 年度年次報告書

パンデミックに対してレジリエントな社会・技術基盤の構築

2023 年度採択研究代表者

小林 義治

リーズ大学 政治国際研究学部
准教授

パンデミックへの備えの政治学

研究成果の概要

COVID-19 の流行から 4 年以上が経過し、次のパンデミックに対する備えの強化が急務となっている。本研究では、将来のパンデミックに備える際に直面する政治的な課題を明らかにすることを目的としている。また、事前の備えがパンデミック時の政治にどのように影響を与えるかを多角的に検討することも目指している。

初年度の研究は、他のさきがけ研究者より遅れて 2024 年 1 月に開始した。この期間は、計画 1 (COVID-19 収束後における市民の備えに対する関心の変化とその要因の分析) の世論調査実験の設計および事前分析計画の作成に取り組んだ。

世論調査実験の設計を再考するために、以下の 3 つの角度からアプローチを行った。第一に、計画 1 の社会的意義や政策への関連性を強化するため、現実社会で提案・実施された COVID-19 の損失を市民に記憶してもらう取り組みを調査した。第二に、学際的な視点から様々な分野の知見を探求するため、災害学、気候変動研究、心理学、記憶学などの文献を調査した。第三に、計画 1 が政治学の文献にも貢献するために、例えば、「備え」という概念を通じて、国防費や戦争に関する文献との関連性も探った。

これらの文献や知見に加え、領域会議でのフィードバックや専門アドバイザーからの助言も実験設計の見直しに役立てた。例えば、元の計画では、市民の態度や関心に焦点を当てすぎているとの懸念があり、スコープが狭く政治学的な洞察が不足していると指摘された。これらの知見や洞察を基に計画の再考と修正を進めた。